

Course number		U-LAS52 10007 PJ22								
Course title (and course title in English)		博物館実習（館園実務） Practice at museum			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Field Science Education and Research Center Associate Professor,KAI YOSHIAKI Field Science Education and Research Center Assistant Professor,YAMATO SHIGEYUKI The Kyoto University Museum Professor,IWASAKI NAOKO			
Group		Career Development		Field(Classification)		Museum Studies National Certification Course				
Language of instruction		Japanese			Old group		Number of credits		1	
Hours		30	Class style		Practical training (Face-to-face course)		Year/semesters		2024・Intensive, Second semester	
Days and periods		Intensive (Guidance) early October and January, (Seminar) Seto: December 10 - 14, Maiduru: December 22 - 26		Target year		3rd year undergraduates or above		Eligible students		For science students
[Overview and purpose of the course]										
博物館（相当施設）の現場で実際に館の活動を経験することで、博物館の理念や設置目的、業務についての理解を深めるとともに、標本等の博物館資料の取り扱いや社会教育活動の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につける。 実習は、和歌山県白浜町にある瀬戸臨海実験所に附属する京都大学白浜水族館、もしくは京都府舞鶴市にある舞鶴水産実験所に附属する水産生物標本館を舞台に行う（振り分けは事前指導の際に行う）。各施設に所属する教職員が分担して担当し、標本の整理や管理、展示等、それぞれの館で日常行われている活動を経験する。 なお、全学共通科目の「博物館実習(文化史)」・「博物館実習(自然史)」のいずれか2単位と、「博物館実習（館園実務）」（1単位）を履修しなければ、学芸員資格を取得することはできない。										
[Course objectives]										
実習で体験する一つ一つの実務は館の活動全体のごく一部であり断片的に過ぎないが、実習を通じて、それらが有機的に関係し、博物館活動が成り立っていること、また、それぞれの施設での研究や館蔵品の管理が博物館活動の基礎となることを理解できるようになる。										
[Course schedule and contents]]										
「抽選・振り分け」 この実習は二つの施設で場所と日程が異なり、それぞれ定員（＝受け入れ能力）が決まっているので、事前に人数と実習施設を調整する必要がある。 そのため本実習の受講希望者は、10月15日（火）午後6時30分から行われる「博物館実習（館園実務）」事前指導に必ず出席し、定員を超えた場合の抽選と実習施設の振り分けを受けること。 詳細については、9月に掲示する。										
「実習」 実習自体は以下の3つの内容から構成され、全てに出席する必要がある。										
1 事前指導 ・10月15日（火）午後6時30分から、総合博物館新館セミナー室にて実施。館園実習の目的										
Continue to 博物館実習（館園実務）(2)										

## 博物館実習（館園実務）(2)

や概要について指導する（担当：岩崎、大和、甲斐）。

### 2 館園実習

・全5日間開講。瀬戸臨海実験所と舞鶴水産実験所は別日程で行う（瀬戸臨海は12月10日～14日、舞鶴水産は12月22日～26日）。

・瀬戸臨海実験所では12月10日～14日の5日間に、下記の実習を集中的におこなう（担当：大和）。実習は附属の京都大学白浜水族館で行う。また宿泊は実験所の宿泊棟を利用する。実習内容は以下のとおり。

展示生物の採集・飼育・管理  
設備・機器のメンテナンス  
標本の維持管理  
広報・情報発信

実習日ごとに、実習内容・感想をレポートにまとめる。レポート書式は事前指導において指定する。

・舞鶴水産実験所では12月22日～26日の5日間に、下記の実習を集中的におこなう（担当：甲斐）。実習は附属の水産生物標本館で行う。また宿泊は実験所の宿泊棟を利用する。実習内容は以下のとおり。

水産生物の採集・標本作製  
標本の維持管理・データベース作成  
展示作業・教育活動  
広報・情報発信

実習日ごとに内容をレポートにまとめ、最終日には簡単な口頭発表を行う。レポート書式は事前指導において指定する。

### 3 事後指導

・2020年1月上旬の午後6時半から、総合博物館新館2階セミナー室にて実施（担当：岩崎、大和、甲斐）。

## [Course requirements]

実習にあたっては、ある程度の生物学・水産学に関する知識や経験を要求されることから、対象を「理系向け」とする。

文部科学省により、博物館実習は大学における学芸員養成教育の最終段階における科目に位置づけられ、その中でも、館園実習では、学内実習で学んだ内容を現場で経験することを求められているため、事前に、「博物館実習(文化史)」・「博物館実習(自然史)」のいずれかを履修済みであることを要件とする。なお、学内実習は必ずしも前年度の履修を要件とするものではなく、本年度前期開講の履修であれば、要件をみたすものとみなす。このため、対象を3回生以上とする。

本授業の単位は増加単位となり、卒業に必要な単位にはならない。

## [Evaluation methods and policy]

レポート／平常点（出席状況、実習に取り組む姿勢等）：各50パーセントずつ。詳細は講義において説明する。

## [Textbooks]

Not used

Continue to 博物館実習（館園実務）(3)

## 博物館実習（館園実務）(3)

### [References, etc.]

#### （References, etc.）

Introduced during class

#### （Related URL）

<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>(総合博物館)

<http://www.seto.kyoto-u.ac.jp/smb1/>(瀬戸臨海実験所)

<http://www.seto.kyoto-u.ac.jp/aquarium/>(京大白浜水族館)

<http://www.maizuru.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/>(舞鶴水産実験所)

### [Study outside of class (preparation and review)]

実習前に、実習施設が実際にどのような活動をしているのかについて、知見を深めておくこと。  
実習日ごとに、実習内容を振り返り、当初のイメージと実際との相違、問題点等の整理を行い、博物館活動に対する理解を深めること。

### [Other information (office hours, etc.)]

履修を希望するものは、10月15日（火）午後6時30分から行われる事前指導に必ず出席すること。ここで、定員を超えた場合には抽選を行い、実習施設の振り分けを行う。これらに欠席した学生の履修は認めない。

それぞれの施設の受け入れ能力から、受講定員を瀬戸臨海実験所・舞鶴水産実験所各3名ずつに設定する。

実習施設への交通費及び食費等の滞在費については、受講生負担となる。

なお野外フィールドでの実習があるので、万一の事故に備え、学研災（学生教育研究災害傷害保険）及び学研賠（学研災付帯賠償責任保険）または同様の保険（生協の共済等）に必ず加入すること。